

台風のおそろしさ

豊岡市立 静修小学校

五年 村上 央晃

「ザーアザー」と、雨の音が聞こえた。すぐ大雨がふっていて、はげしい風の音が鳴っていた。家のまわりには、たくさん水がたまっていた。ぼくはそのときテレビで、台風のことを見ていた。ぼくは、テレビを見る前は、台風はこわくないと思っていた。けど、どちがった。テレビを見たときは、おどろいた。他の県や町の人には、ほとんど川につかなくて、にげおくれている人もいた。また学校の体育館や公民館にひなんしている人もいて、ぼくは、足がふるえていた。ぼくはこのとき、「台風はこわい」と初めて実感した。「台風なんてこわくない」と思っていた、そんな自分がはずかしくなっていた。テレビを消してから外に出ると、川の水がめちゃくちゃ増えていて、すぐかった。家の近くまで川の水が来ていた。

家に帰ってから、もう一度テレビをつける
と、豊岡市が映っていた。家が水につかてい
て、ぼくは、「めっちゃくちゃだよ」と思っ
て見ていた。ぼくの近くの家の人も公民館に
ひなんしていて、大変そうだった。ぼくは夜
あんまりぬむれなかった。

起きると川は、昨日よりも水が減っていて、
ちよつと安心したが、豊岡市や他のひがいが
あった所は大変だろうなあとあらためて思っ
た。またなくなっている人もいて、「うそだ

ろう」と思った。兄ちゃんの友達の家に行っ
てみると、すぐくぼろぼろになっていて、テレ
ビで見たよりもすぐくおどろいた。片付
けの手伝いをした。手伝ってかりこんな家が
あるんだなと思った。今度また、今回の台風
のような災害があった時には、すすんで手伝
おうと心に決めた。